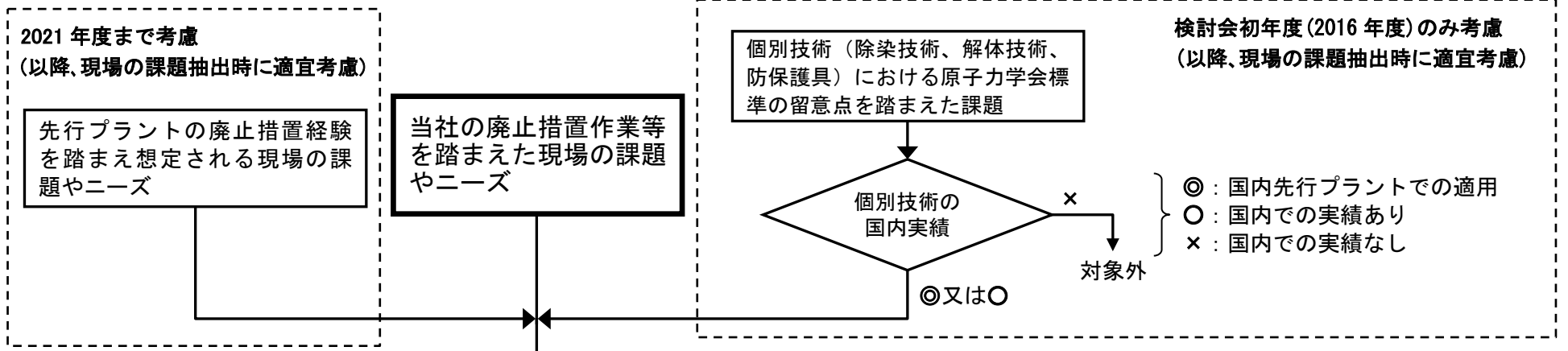
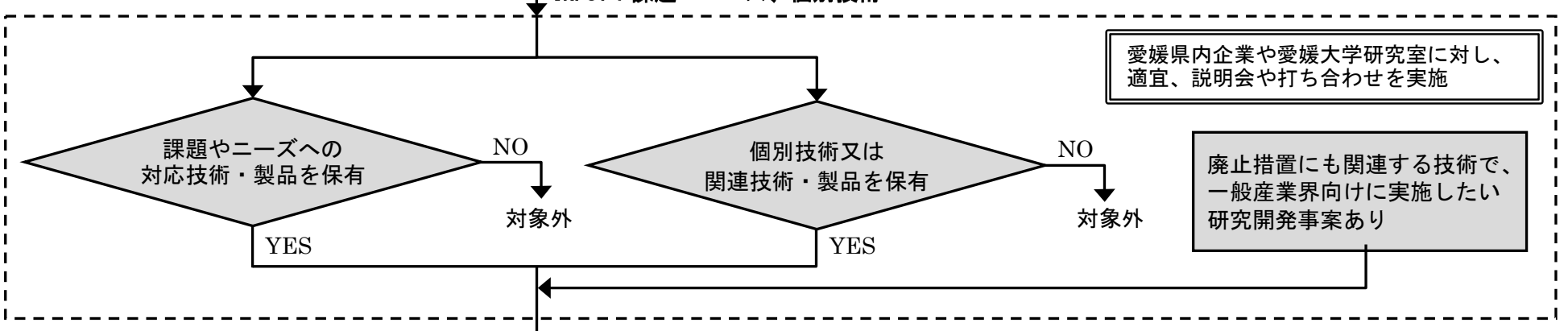


### 廃止措置研究に係る研究テーマ選定フロー

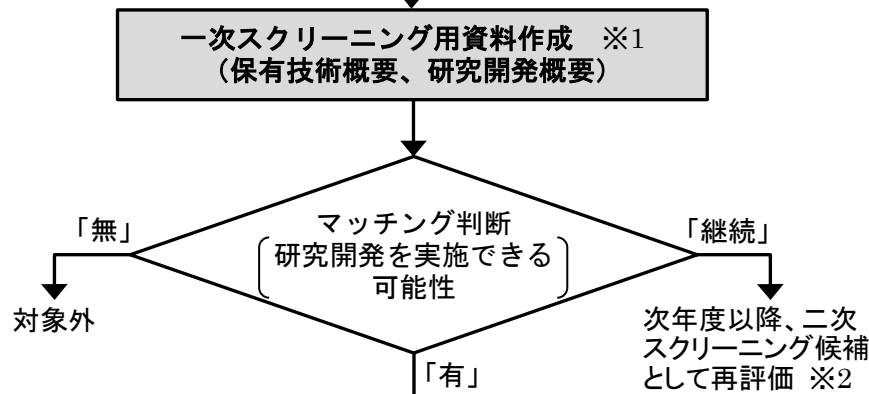
#### 【課題・ニーズ等の抽出・整理】



#### 【保有技術とのマッチング】



#### 【一次スクリーニング】



【一次スクリーニングにおけるマッチング判断】

「有」: 現時点で課題、ニーズの解決に繋がる研究開発を実施できる可能性が有り

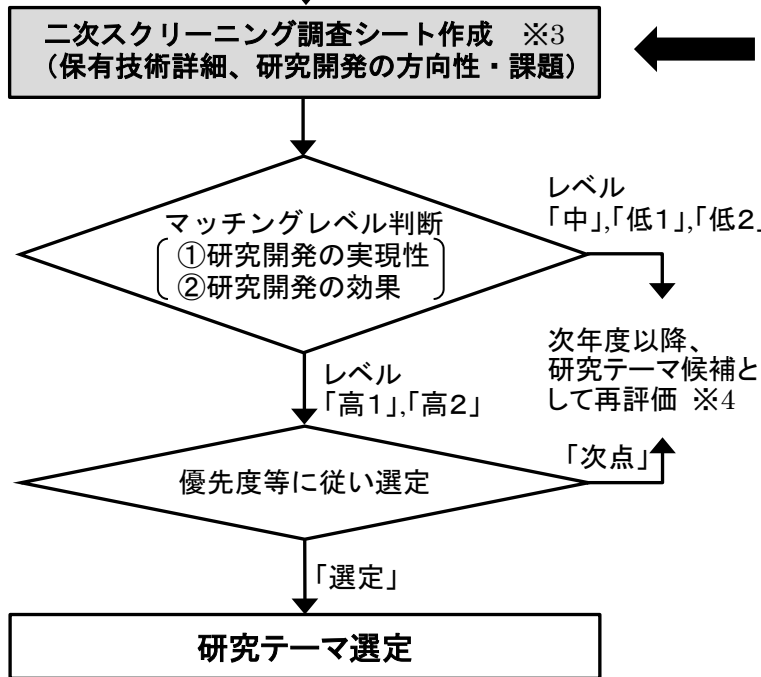
「継続」: 将来的に課題、ニーズの解決に繋がる研究開発を実施できる可能性が有り

「無」: 課題、ニーズの解決に繋がる研究開発を実施できる可能性が無い(含: 研究要素が無い、現行技術・製品がそのまま現場適用できる等)

※1 資料からの判断ではなく、直接企業との打合せ等によってマッチング判断しても良い。

※2 再評価の結果、研究開発実施の可能性が無くなれば、「無」とする。(現場課題の整理等)

#### 【二次スクリーニング】



過去、二次スクリーニングまで進み、テーマ選定に至らなかった件名の再提案

基礎研究終了後の高度化、実用化(製品化)研究の提案

【二次スクリーニングにおけるマッチングレベル判断】

- 一次スクリーニングで研究開発の可能性が「有」とした技術に対し、「①研究開発の実現性」及び「②研究開発の効果」について評価を行い、マッチングレベルを決定する。(下部【二次スクリーニングの総合評価表】参照)
- 評価においては企業(実用化研究)と大学(基礎研究、調査研究)の違いを考慮する。
- 優先度: 「高1」>「高2」>「中」>「低1」>「低2」

※3 二次スクリーニング調査シート作成段階で研究実施を取り下げる場合はレベルを判定せずに、評価等の扱いについて提案元と調整する。

※4 現場課題の整理等により、研究開発実施の可能性が無くなれば、再評価対象外とする。再評価の結果、ある程度の期間(5年間を目安とする)「低1」以下の評価であれば、再評価対象外とする。ただし、効果が「中間」である「低1」評価件名について、将来的に課題、ニーズの解決に繋がる研究開発を実施できる可能性がある場合は除外しない。

#### 【二次スクリーニングの総合評価表】

② 研究開発の効果	「やや高い」	レベル「中」	レベル「高2」	レベル「高1」
	「中間」	レベル「低1」	レベル「中」	レベル「高2」
	「やや低い」	レベル「低2」	レベル「低1」	レベル「中」
		「やや低い」	「中間」	「やや高い」
		① 研究開発の実現性		